

世帯と人口

2 月 1 日現在・()内対前月比

世 帯	46,210	(+ 10)
人 口	122,068人	(+ 29)
男	62,147人	(- 8)
女	59,921人	(+ 37)

広報 えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の 1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

タイムカプセルのノートや手紙を見て、当時の話題で盛り上がる元上郷どんぐり子ども会会員



25年前の手紙届いた!!

仕事や雑事に追われる毎日。忙しいが平穏な日常に、突然子どもころの自分から手紙が届いたら…。ちょっとSFめいていますが、このほど上郷地区で25年前に埋めたタイムカプセルが掘り出され、同地区住人が過去の自分と“対面”しました。

上郷地区でタイムカプセル開封

このカプセルは、直径30^{センチ}の透明なプラスチック製の球体で、昭和54年の「国際児童年」を記念し、上郷どんぐり子ども会約150人が児童館（現在は上郷自治会館）前にある月桂樹の根元に埋めたものです。しかし、今月末に一部開園する「神奈川県立相模三川公園（記事5面に掲載）」の関連工事で偶然掘り出されたため、当時の子ども会会員有志がミニ同窓会を兼ねて集まりました。

カプセルには、将来の夢や希望を書いた手紙、ドラえもんやルパン三世の絵を描いたノートなどが、変色はしているものの良好な状態で収められていました。集まった人たちは、記憶の中に埋もれていた当時のテレビアニメや、よく遊んだ場所の話に盛り上がりましたが、自分たちが書いた文章のわきに、母親の寄せ書きを見つけて、しみじみと読み返す場面も。

「宇宙飛行士やスチュワーデスになりたい」子ども特有のふぞろいの文字で書かれた夢の横には、「30年後は70歳。健康でいられるように。そして、娘が幸せな結婚生活を送れるように」「今日、息子が遠足に行っている大山に黒い雲が…。雨に降られなければよいが」と、子どもを気遣う文章が、ひっそりといくつも書かれていました。

「あのころは、仲間と遊びまわることばっかりで、親には『あれが欲しい、これが食べたい』とねだってばかりいた記憶が多い。お母さん方の寄せ書きを読むと、どれも我が子を想う気持ちでいっぱい。自分自身が親になった今は実感できますが、当時は迷惑ばかりかけていたからね」。

そこらじゅう駆け回って遊べたのは遠い昔、上郷地区も例に漏れず、今は人も車も建物の数も増え、子どもたちを安全な場所で伸び伸び遊ばせることができないのがかわいそう、と親心をみせる元子ども会会員にとつて、相模三川公園の開園は朗報でした。「4月は久しぶりに、子どもと一緒に童心に戻って公園で遊ぶつもりです」の声も…。

突然届いた過去からのメッセージが、親子の絆をさらに深めたようです。

◇タイムカプセルは市内各地区の子ども会で埋められましたが、掘り返した例は少なく、収納物の保存状態が良い例はほとんどないそうです。